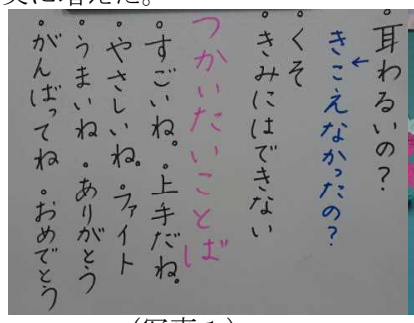
日立市立大みか小学校

重点的に取り組んだ活動・内容

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>実　　践　　状　　況</th></tr>
<tr><td>1　実践１
【言語環境の整備（ふわふわ言葉）】</td><td>本校がめざす児童の姿の一つに「やさしい子（やさしく）」がある。グランドデザインの「やさしく」（豊かな心づくりPROJECT）の中には、「言語環境の整備（ふわふわ言葉）」とあり、明確に「ふわふわ言葉」の重要性が謳われている。そこで、各学年が工夫して、ふわふわ言葉があふれる教室の実践に取り組んだ。
成果
教室や廊下にそれぞれの学年が工夫を凝らした掲示物がある。例えば、２年生の教室には「つかいたいことば」だけでなく、「つかわないでほしいことば」（写真１）をまとめた掲示物、特別支援学級の廊下には、「ふわふことばをふやそう」の木（写真２）が「ありがとう」「だいじょうぶ」等の枝に分かれ、児童が実際に言われた言葉が書かれた掲示物があり、ふわふわ言葉に対する児童の意識が高まった。また、総合的な学習の時間に５年生が行った日立未来イノベータープログラムで、ふわふわ言葉を使おうキャンペーンを実施した。自作のキャンペーンイラストを廊下や階段に掲示した。（写真３）キャンペーン終了後は各学年での取組結果を給食時の放送で発表した。
これらの取組により、学校全体でふわふわ言葉の存在を知り、使用する機会が確実に増えた。
 

（写真１）　（写真２）　（写真３）
課題
学年に応じたアプローチで、「ふわふわ言葉」を増やす取組を行っているが、学校だけではなく、家庭や地域と同一歩調で進めることが大切である。各種たより等で家庭や地域へ啓発を図っていきたい。</td></tr>
<tr><td>2　実践２
【職員研修会（アニメ「めぐみ」視聴）】</td><td>北朝鮮による拉致事件から40年以上が経過した。時の流れとともに拉致被害者の両親も高齢となり、残念ながら拉致された我が子と再会できずに亡くなったというニュースを耳にすることが多くなってきた。最近は拉致問題の進展もなく、報道も少なくなってきた。そこで、拉致問題を授業に生かすために、まずは職員がこの事件のことやDVD存在を知り、拉致問題を人権問題として考える契機となるように、アニメ「めぐみ」を視聴した職員研修会を行った。
成果
５人の拉致被害者が帰国してから20年以上経過し、この出来事を知らない教員が増えてきた。拉致問題を風化させないように、DVDの視聴を通して、若手教員にもこの問題を認識し、人権問題として考える契機として事実を知ってもらうことができた。
課題
拉致問題については漫画もあって、とても分かりやすく描かれている。この問題が風化されず、児童の人権意識を高めるために、年一度のDVDの視聴だけでなく、学校の図書室と連携して、漫画を図書室の蔵書としたり、教室に置いたりすることで、児童がいつでも借りて読めるようにしておく等の環境を整備していきたい。</td></tr>
</table>